

研究紀要『エレノア』創刊の祝辞

学校法人桃山学院 学院長 アンデレ 磯 晴 久

(日本聖公会大阪教区主教)

桃山学院教育大学キリスト教研究紀要『エレノア』の発刊おめでとうございます。このエレノアという名は、本学のエレノア・ホールから命名されました。そして、このエレノア・ホールという名称は、プール学院短期大学初代学長ミス・エレノア・メアリー・フォス先生（1950～1970年在任）を記念して、名付けられたものです。エレノア・フォス先生は、長きに亘り、英語教育はもちろんのこと、キリスト教精神に基づいた人間形成と清心な学術の研究・教育によって、新しい時代にふさわしい女性の育成に力を尽くした方でした。本学の新しいキリスト教紀要が『エレノア』と命名されたことは、神さまの不思議な導きを感じさせると共に、誠にふさわしい命名であると感じています。そして、『エレノア』が、本学の建学の精神の深化・具現化に、貢献していくように期待致したく存じます。

今回寄稿されました研究・論文のテーマを見ましても、「御主イエスのご誕生と成長について潜伏キリシタンは如何に語り伝えてきたか——『天地始之事』における聖書物語の受け止め」、「隣人愛あるいは歓待について」、「キリスト教と戦争：平和主義とキリスト教戦史の矛盾～ジョルジュ・バタイユによる一考察～」、「The Moravian Mission in Nicaragua and Its Principle of Neutrality: 1849-1933 I（ニカラグアにおけるモラヴィア派の宣教と中立主義：1849年～1933年 I）」、「キリスト教保育と日本の幼児教育—教育方法と教育課程の導入の観点から—」と、長崎での潜伏キリシタンをはじめとする史的研究等から現代の教育に関する研究に、そして海外でのキリスト教宣教の紹介や混迷を深める現実社会や世界を視野に入れた幅広いジャンルとなっており、さらに今後への期待が膨らむ内容であります。

桃山学院教育大学は2018年4月開校という産声を上げたばかりの大学ですが、しかし、その底流には創立139年の伝統と歴史を持つプール学院のDNA、創立134年の桃山学院のDNA、そして597年に英国のカンタベリーにオーガスティン大主教が着座してから始まったおよそ1500年の聖公会のDNAが流れています。これらのDNAが豊かな化学反応を起こし、キリスト教精神に基づく豊かな学術研究・教育活動がなされますように、また紀要『エレノア』が本学の学術研究・教育活動に貢献しますように祈念しつつ、巻頭言とお祝いの言葉とさせていただきます。